

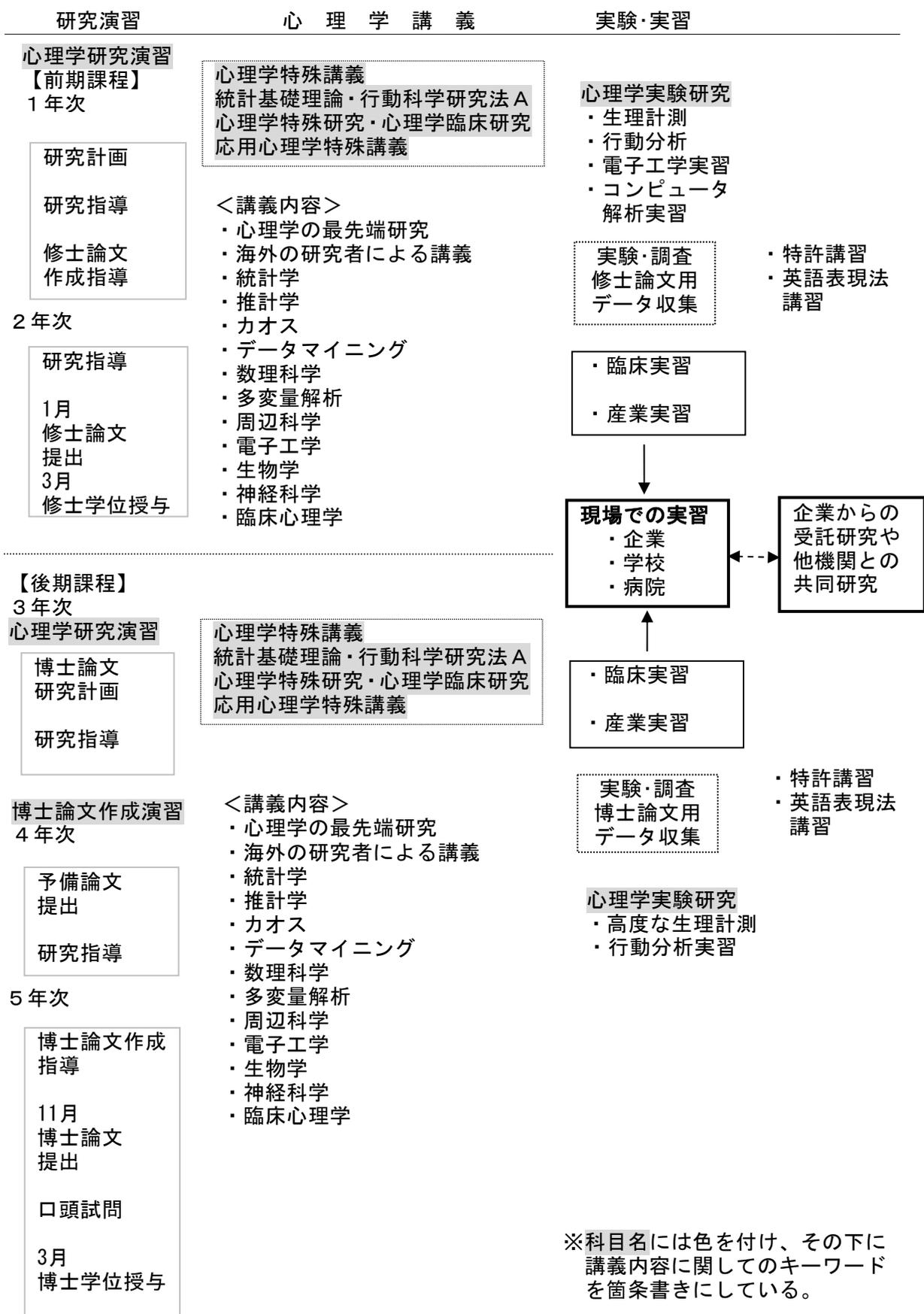
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	関西学院大学	整理番号	a035
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	理工系分野に貢献する心理科学教育		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 心理学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (実験心理学・認知科学・感性情報学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 文学研究科・心理学専攻 〔博士前期課程・博士後期課程〕	<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 阪倉 篤秀	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学では、研究の高度化および優れた研究者の養成と、高度な専門的職業人の養成という二本柱を据え、先端的科学研究の推進と、社会のニーズに応える専門家養成プログラムの双方を重視してきた。スクールモットーである Mastery for Service (奉仕のための練達)は、確固とした基礎研究に基づいた応用研究こそが真に有効な社会貢献を生み出すことを示している。大学院教育の充実については、従来からの基本重視の姿勢に加えて、実学重視・産学連携路線の強化を実践している。歴史的に見ても、関学は企業との関わりが圧倒的に強い大学である。心理学専攻では、学術フロンティアプロジェクトとして企業など外部機関との共同研究と高度な教育の場として「応用心理科学研究センター」を2002年に立ち上げた。さらに心理学専攻と理工学部の情報科学専攻を統合した研究教育施設としてインターアクション科学研究センターの設立を進めている。</p>			

機 関 名	関西学院大学	整理番号	a035
5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)			
<p>本学の心理学研究室は、我が国の私学では最古の歴史を誇り、これまでに学習と生理心理学の分野で多くの成果を上げ、我が国の心理学界の中で中心的な位置を占めてきた。最近は、それらの分野だけでなく知覚、記憶、異文化、臨床心理、情報処理などその研究領域を広げている。本学の研究は、実験、調査、観察に基づく実証科学の心理学で、他の科学技術との間で方法やデータにおいて互換性があることが特色である。教育の基本は基礎研究であり、学位論文も基礎研究のテーマが多い。しかし、近年、工学や企業では感性や認知の評価研究の要請が高まっている。責任者は以前より、心理工学を提唱し心理学の工学への応用研究を進めている。実際に企業や外部の研究機関と共同研究する場として、先端技術による応用心理科学研究のテーマで「応用心理科学研究センター」を立ち上げ、海外を含む企業や研究機関から多くの受託研究を実施し、また研究員を受け入れている。大学院生は、自らの基礎研究を実施する傍ら、それらの応用研究に協力することにより、応用研究に関する知識と技術の向上を図っている。この手法は行動療法など実証的な臨床研究にも有効である。</p>			
5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)			
<p>大学院における研究者の養成は、「科学者-実践家」(The Scientist-Practitioner Model) のトレーニングモデルに基づいて行っている。このモデルは米国を中心に長年実践されている博士号取得をスタンダードとする高度な専門家養成モデルである。具体的な特徴は、大学院では心理学基礎分野の知識修得と実験、心理アセスメント、生理反応計測、行動分析法など、科学的研究方法と統計などによるデータ解析法の知識・技術を習得させ、応用関連分野の知識を修得させている。大学院生の研究テーマは自由で、修士論文や博士論文の課題は基礎研究が多いが、いずれの手法も応用可能なものである。他の理工系の出身者は、バラツキの少ない物理現象の解析には強いが、人のように個人差がある現象の統計的解析の取扱に慣れていない。近年、産業界で感性や認知の研究の重要性が叫ばれている。これまでも、統計的手法に関して他研究科と数理解析の基礎から、最新の多変量解析法にいたる統計学と推計学の講義を実施してきた。心理学周辺の科学技術の基礎知識・技術を修得させ、理工系研究者と情報交換のできる研究者を育てている。臨床の分野でも国際的には実証的な手法が主流となり医学やニューロサイエンスなど、脳や身体に関する先端科学と情報交換可能な教育を実施している。英語に関しては、読み書きはもちろん話せることも、企業や理工系の研究施設、医療や教育現場などで国際的に研究を行うために重要な課題であるため、英語表現力の強化を行う。既に前期課程の大学院生にして単独で海外の学会に出かけ発表し評価を得てきている。今後は、これまで以上に海外の第一線の研究者を客員教員として招聘し、英語での授業を一層充実する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



※科目名には色を付け、その下に講義内容に関するキーワードを簡条書きにしている。

機 関 名	関西学院大学	整理番号	a035
<p data-bbox="165 199 588 230">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 660">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 902">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 635 999">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 1014 1428 1332" style="list-style-type: none"> ・基礎研究に根ざした実証的な心理学の応用を目指すという目的に即して、工学的手法を取り入れた心理学教育を展開するという取組は、文理融合の具体化のグッド・プラクティスと言え、高く評価できる。また、これまでの実績を踏まえ、目的に沿った教育課程が編成されており、学位取得のプロセスの面でも十分に配慮がなされている点は、実現の可能性が高いと言える。 ・しかしながら、本事業の趣旨に照らして、本教育プログラムが理工系のどの領域に貢献するのかななどを、さらに焦点化し、それに沿って、より意欲的・独創的な取組とするための創意工夫が望まれる。 			